

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）

分担研究報告書

長期的人口減少と大国際人口移動時代における

将来人口・世帯推計の方法論的発展と応用に関する研究

「日本人生年コーホートデータの作成と 1944～1946 年の死亡構造の算定」

研究分担者 林玲子 国立社会保障・人口問題研究所

研究要旨

戸籍局統計、衛生局統計、統計局統計、人口動態統計、琉球政府人口動態統計、法務年鑑等の原資料をとりまとめ、生年別の出生数、死亡数、国籍異動の情報の所在を確認したところ、1872年から現在までの期間、生年/各歳別情報がない部分は主に、1944～1946年、死亡の国内外届出遅れ、国外死亡、1948年以前の国籍異動であった。

生年コーホートデータを用い、1944～1946年の超過死亡数を推計したところ、その値は2,644,457人で、そのほとんど（89.8%）が男性であり、特に1920～1923年生まれ、1943年時点で20～23歳の死亡が突出して多かった。

A. 研究目的

日本における人口値は、国勢調査、住民基本台帳に基づく人口、戸籍統計があるが、日本人生年コーホートデータはそれらとは異なる人口値を提示するものである。いずれの人口値もそれぞれ誤差をもたらす要因があり、本研究では4つの人口値を比較することで、それぞれの特徴を明らかにすること、またそれぞれを突き合わせることで空白となっている人口値を推計することを目的としている。

B. 研究方法

昨年度から引き続き、戸籍局統計、衛生局統計、統計局統計、人口動態統計、琉球政府人口動態統計、法務年鑑等の原資料をとりまとめ、生年別の出生数、死亡数、国籍異動の情報の所在を確認し生年コーホートデータを作成した。そのデータを用い、

1944～1946年の超過死亡数、性・生年別死亡数を推計した。

C. 研究成果

1872年から現在までの期間、生年/各歳別情報がない部分は主に、1944～1946年、死亡の国内外届出遅れ、国外死亡、1948年以前の国籍異動である。

届出遅れ、国外の出生・死亡は戦前で多いが、出生の届出遅れは死亡の届出遅れよりも多い。

国籍異動は1949年から1961年まではマイナス、つまり、国籍喪失の方が国籍取得よりも多い年もあったが、おおむね1990年代より上昇し、2005年以降は減少の傾向にある。国籍異動は女性の方が多く、1960～1980年代生まれが多い。

1944～1946年の死亡数を、1955年国勢調査から1947～1954年の死亡数を差し引

いた1947年初の生年コーホート人口より、1943年末の生年コーホート人口を差し引いて求めると、1944～1946年の死亡数は5,827,218人と推計された。さらにこの値から、戦争がなくても起こったであろう通常の死亡、1943年までの国内外死亡届出遅れ、国外死亡数、1955年時点の在外邦人数を差し引いた値である1944～1946年の超過死亡数は2,644,457人と推計された。このうちほとんど(89.8%)は男性であり、2,375,510人であった。また、生年別にみると、特に1920～1923年生まれ、1943年時点で20～23歳の死亡が突出して多い。

D. 結果の考察

出生に比べ、死亡の届出遅れが少ないのは、乳児の死亡率が高い時代は子どもの登録はある程度大きくなってから、生き延びてから、という習慣があったこと、特に江戸時代の宗門/人別改めでは子どもの登録は5歳や10歳以降であったこと、埋葬に関わる規定ができて以降は死亡を登録しないと埋葬ができなかったこと、という要因が考えられるが、出生の場合は生き延びれば登録なしでは生活に支障をきたすが、死亡については届出をしなくても実質的な問題が生じないため未届出が多い、という可能性もある。

1944～1946年の死亡数を生年コーホートデータにより性別生年別に推計した結果、既存の戦死者数推計と同程度の値となったが、既存推計について、どの範囲で戦死者数を捉えているのか、期間、また、戦争による直接の死亡なのか空襲による死亡等も含むのか、といった死亡因別に精査すれば、さらに生年コーホートデータによる死亡数との比較が妥当なものになると考えられる。1944～1946年の超過死亡は若い男性、特

に1920～1923年生まれが圧倒的に多かった、ということは、これまで伝聞的に語られたことを裏付けるものである。

E. 結論

生年コーホートデータを作成する目的は、国勢調査、住民基本台帳に基づく人口、戸籍統計という既存の人口データと合わせて、それぞれの人口値の違いを明らかにすることにある。来年度は生年コーホートデータの原資料で生年別情報がない部分の推計を加え、近年の人口値の比較分析を行う。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

林玲子「第二次世界大戦期の死亡構造の再構成 - 人口動態統計による日本人性別各歳コホートより」日本人口学会 2021 年度第 1 回東日本地域部会、札幌市立大学

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし